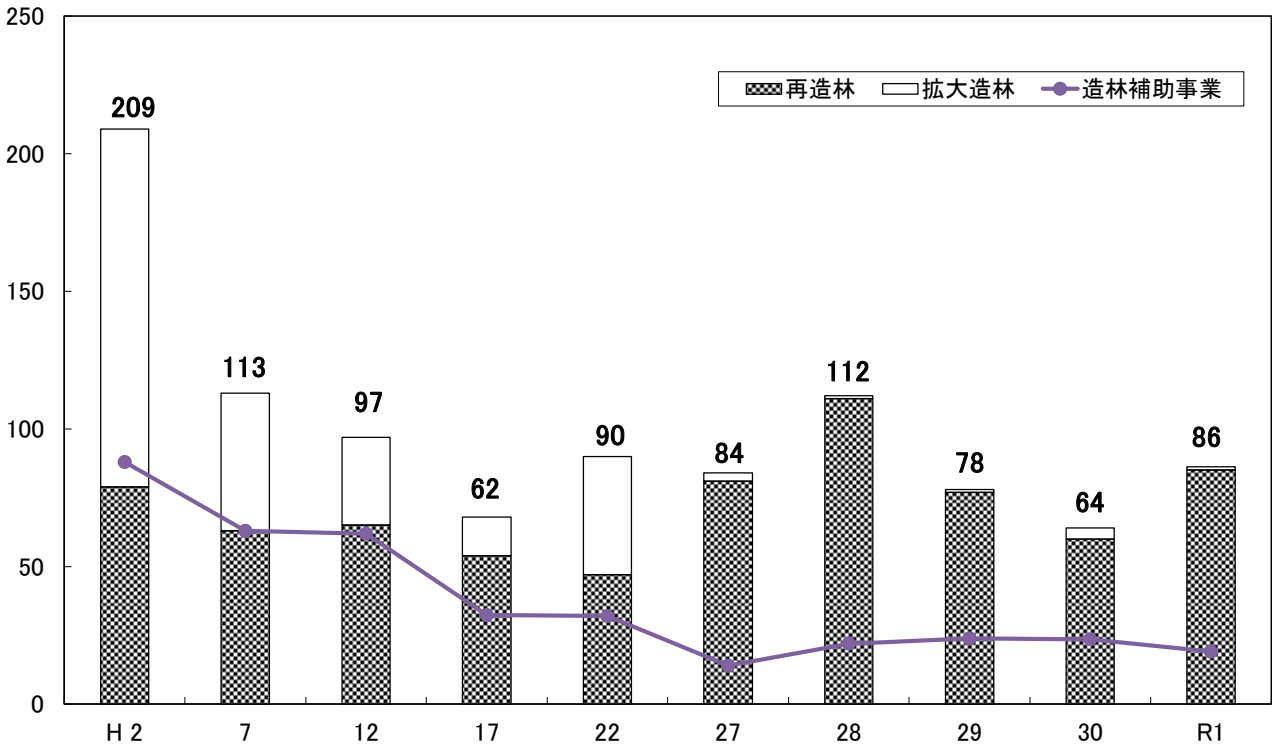


2. 森林の整備

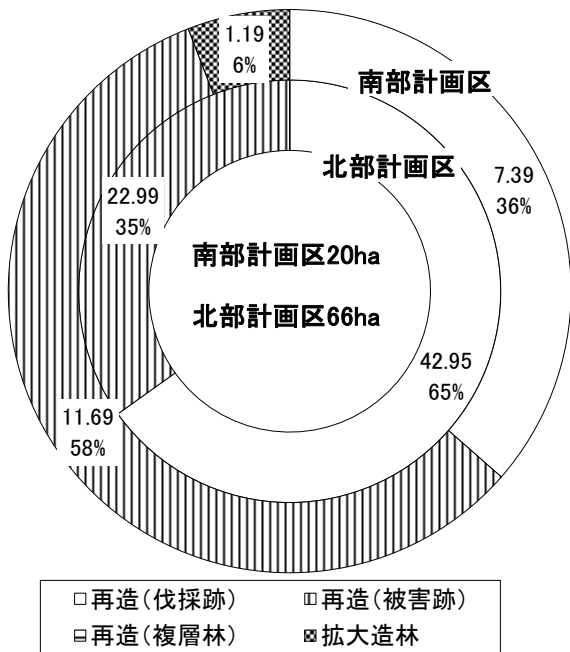
(1) 人工造林

—造林面積は低調—

面積(ha)



造林種別人工造林面積地域別人工造林面積 (ha)



本県の造林面積は平成17年度まで大幅に減少した後、28年度まで増加傾向であったが、29年度から30年度は再び減少したものの、令和元年度は増加し約86haとなった。

また、その内、補助造林面積は約19haであり、人工造林面積に占める補助造林面積の割合は約22%となっている。

造林種別の内訳は、被害林跡地等への再造林が前年度より25ha減少し約35haとなっており、拡大造林は前年度より3ha減少し約1haとなっている。

令和元年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区は前年度より28ha増の約66haとなっており、すべて再造林となっている。

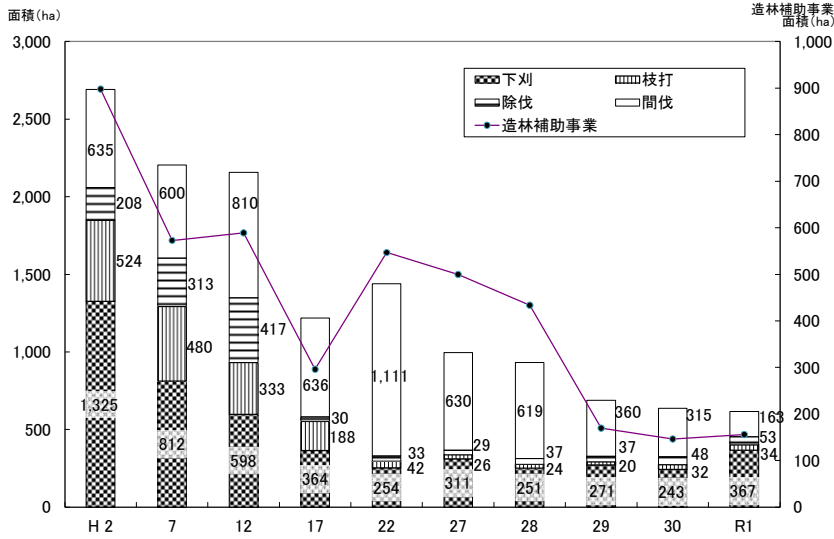
一方、南部計画区は前年度より6ha減の約20haであり、北部計画区と同様に再造林がほとんどを占めている。

造林樹種別の面積構成は、スギが15% (13ha)、ヒノキ12% (10ha)、マツ38% (33ha)、広葉樹35% (30ha)となっており、前年度に比べスギの割合が約20%減少したのに対し、ヒノキの割合が約3%、マツの割合が約16%、広葉樹の割合が約10%それぞれ増加している。

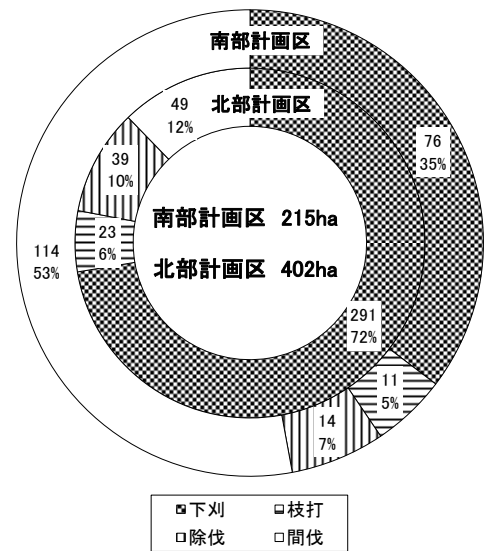
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積は減少傾向—

間伐・保育面積の推移

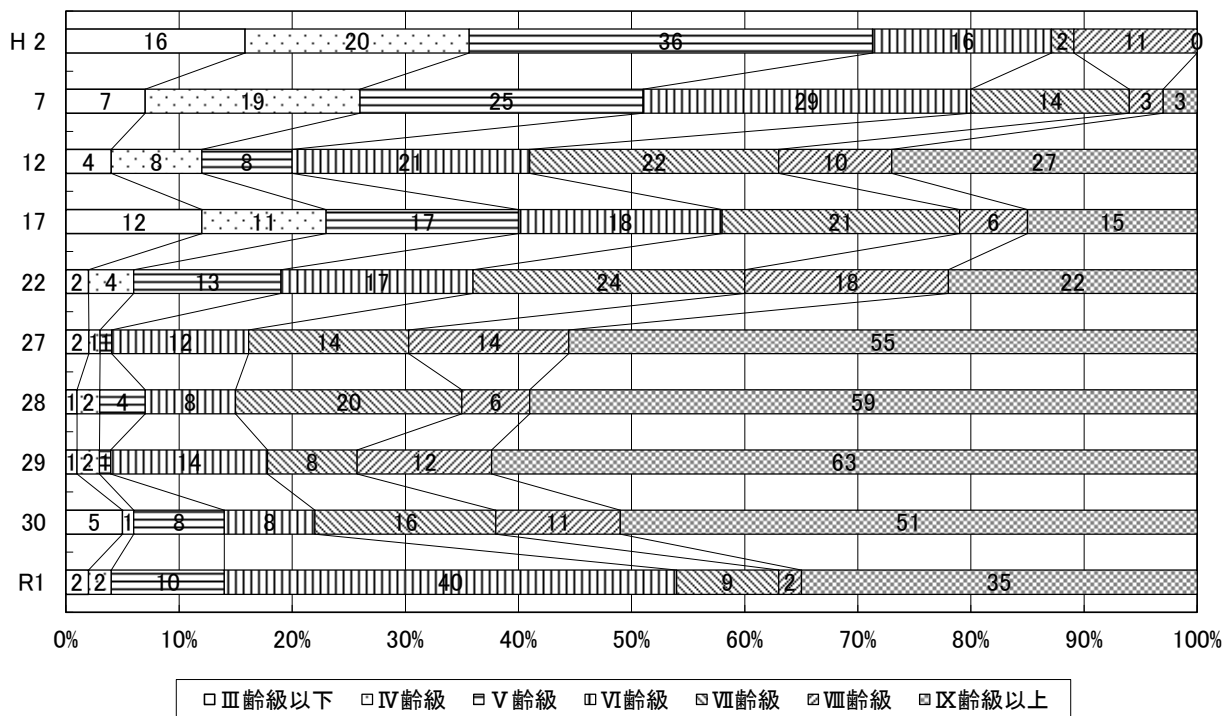


地域別間伐・保育面積 (ha)



単位：%

間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、17年度まで大幅に減少した後、22年度に1,111haまで回復したが、再び25年度に減少した。しかしながら、27年度にかけて再び増加し、28年度は微減にとどまった。

令和元年度については、前年度から23ha減少し617haとなった。種類別には、除間伐が前年度から147ha減少し216ha、下刈は124ha増加し367haとなっている。

地域別傾向としては、北部計画区では前年度から107ha増加し402haとなり、南部計画区は前年度から128ha減少し215haとなっている。種類別内訳については、北部計画区が間伐12%・下刈72%に対して、南部計画区では間伐53%・下刈35%となっている。

間伐実施面積の構成を齢級別にみると、令和元年度はIX 齢級以上の割合が約35%となり、VIII 齢級以上で見ると間伐全体の約37%を占めるなど高齢級化が進行している。